

令和2年度（令和2年～3年）NIE 実践報告

奄美市立名瀬中学校

1 テーマ

「より豊かな思考力・表現力を身につけさせるための新聞活用の在り方～NIE 実践3年目～」

2 はじめに

本校が NIE の活動に取り組んでから3年目となった。本年度は、前年度から継続して行っているものに加え、校内の校務分掌に「読書指導・NIE 係」を位置づけ、学校全体で NIE に励むということを目指し1年間取り組んだ。本報告では、①「NIE による学力向上の効果」、②「読むのび教室を通して」③「名中タイムの実践」この3点を中心に記していく。

3 鹿児島学習定着度調査（国語）より

昨年度から2年間継続して NIE に取り組んでいる本校の現2年生を対象に、昨年度（令和元年度）・今年度（令和2年度）の鹿児島学習定着度調査（国語）の結果から、NIE による学力向上の効果を検討した。本校の2年生は1年時の鹿児島学習定着度調査の結果が県平均を「+1.1%」上回っており、比較的国語の学力は身に付いている。結論から述べると、令和元年度のような飛躍的な結果の上昇は見られなかった。今年度は昨年度の結果を下回る領域がほとんどであった。本校国語教員の指導不足だと認め反省した次第である。しかし、「読むこと」の領域だけは「+1.0%」と昨年度の結果を上回ることができた。一概に NIE に取り組んだ結果であるとは言えないのかもしれないが、本校で取り組んだ「名中タイム」の取組や新聞閲覧コーナーの設置等、新聞に触れる機会を増やした恩恵ではないだろうかと前向きに捉えたい。

鹿児島学習定着度調査(国語) 現2年生 結果より			
	2020 年(令和元年度)	2021 年(令和2年度)	2020 年と 2021 年の差
話すこと・聞くこと	79.5 %	79.3 %	-0.2 %
書くこと	84.0 %	67.9 %	-16.9 %
読むこと	76.0 %	77.0 %	+1.0 %
知識及び技能	85.9 %	76.4 %	-9.5 %
平均通過率	80.6 %	76.1 %	-4.5 %
平均誤答率	17.4 %	19.8 %	+2.4 %
平均無答率	2.1 %	4.0 %	+1.9 %

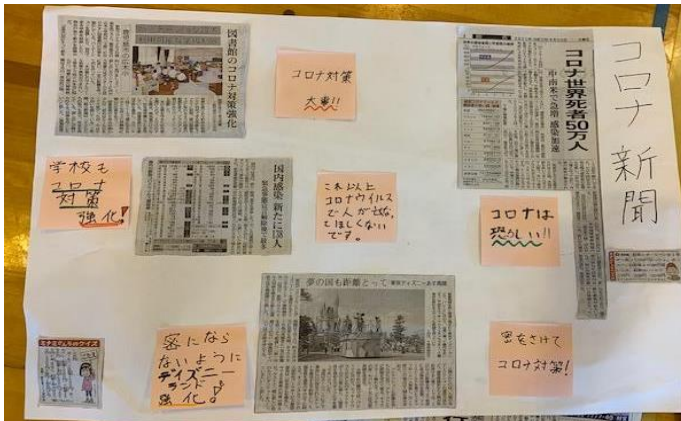
4 実践内容

(1) 「よむのび教室」の実施

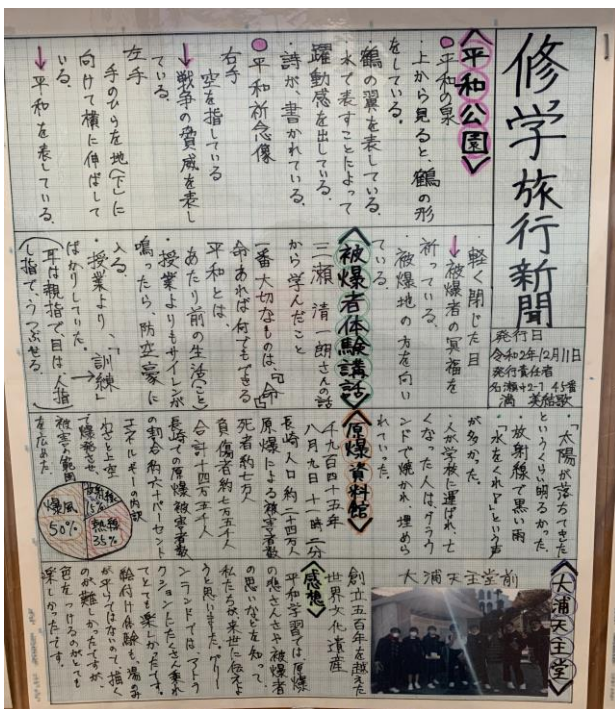
7月3日（金）に、本校2年生を対象に、南日本新聞社読者センター谷上英文氏を講師として招き、「よむのび教室」を開催して頂いた。修学旅行のまとめである「修学旅行新聞」作成のために、新聞づくりのポイントや新聞記事の特徴等について講話を聞き、新聞の基礎を学んだ。



本活動では、記事をじっくり読み、要点を理解したうえでグループに紹介することで、伝える力や読む力を育むことができた。また、活動の最後にはグループで作成したまわしよみ新聞を他グループに発表した。自分たちの班で工夫した点、記事を選んだ観点等、他者に魅力をうまく伝えられるように、プレゼンテーション能力を鍛えることもできた。



↑ 生徒作品。生徒が持っている社会的な関心を「知ることができた。付箋に記事に対する一言感想を書き、レイアウトにも工夫を凝らした。」



まわしよみ新聞作成後、新聞の基礎知識や記事のレイアウト、図表の効果的な使用等、学んだことを生かしながら修学旅行新聞を作成した。修学旅行での学習や実際に体験したことの感想をまとめ、どの生徒も魅力的な新聞づくりをすることができた。新聞づくりは総合的な学習の時間等でこれまでも行われてきた活動ではあるが、よむのび教室での学びを生かし、具体的なイメージを膨らませることができていたおかげで、スムーズに作成を始めることができていた。また、「何を書けばいいのだろう」や「どこに書けばいいのだろう」といった相談も少なく、どの生徒も時間内で完成させることができた。

初めてのよむのび教室であったが、大変有意義な時間となった。機会があれば、今回のまわしよみ新聞作成だけでなく、「はがき新聞」作りを始め別の活動にも取り組んでみたい。生徒には本活動を通して、より新聞に興味をもってもらえることができたと感じている。また、学活や道徳の授業においても、互いを理解する活動に生かすことができるため、これから取り組んでみたい。

(2) 名中タイムによる実践

昨年度から土曜授業の朝の活動として、ワークシートに掲載されている新聞記事に自分の意見を書き、友達や教師からコメントをもらい、考え方やものの見方を広げる活動を行っている。本活動では、記事を読んで自分の意見を書くことで、思考力や表現力を向上させるだけでなく、他者の意見へコメントすることにより多様な考えに触れさせ、互いの良さを認め合い高め合うことも目的としている。また、今年度からは公立高校入試や先の大学入試を意識し、160字～200字以内という字数制限を設けた。

本活動を通して、社会的な関心が向上し、あらゆる活動の中で時事的な課題にも対応できるようになる効果が得られた。課題としては、各学年に配慮した取組を検討する必要があると感じている。しかし、難易度は高いが、中学校1年生から3年間継続して取り組むことでさらなる効果は期待できる。子どもたちの実態や学年に応じて、ヒントカードを用意したり、字数制限を緩和させたりする等、まだまだ改善の余地がある。

學習指導係，讀書・N I E係

1 目的

新聞記事を読んで感想や意見を書く活動を通して、授業等で培った基礎的・基本的事項を活用しながら、思考力・判断力・表現力を身に付け、互いのよさを認め合い高め合う生徒の育成を図る。

2 期 目

5月9日, 6月13日, 7月11日, 9月19日,

10月10日, 11月14日, 12月12日, 2月13日

土曜日実施 全8回

3 実施時間帯

8 : 15 ~ 8 : 35 の 20 分間

4 活動の流れ

- (1) 新聞記事を読んで、自分の感想や考えを書く。(10 分)
- (2) ペアやグループをつくり、それぞれの感想や考えを読み合い、「同意」「反論」「付け加え」等のコメントを互いに書く。(5 分)
- (2) グループ以外の友達のコメントを読んだり、教師が紹介したりして、全体で共有する。(5 分)

新聞記事

話題になっている記事（ジャンルは問わない。社説や一般投稿作品から選ぶこともある）や議論の余地のある時事的な記事を選び、自分の意見を 160 字から 200 字以内でまとめる。

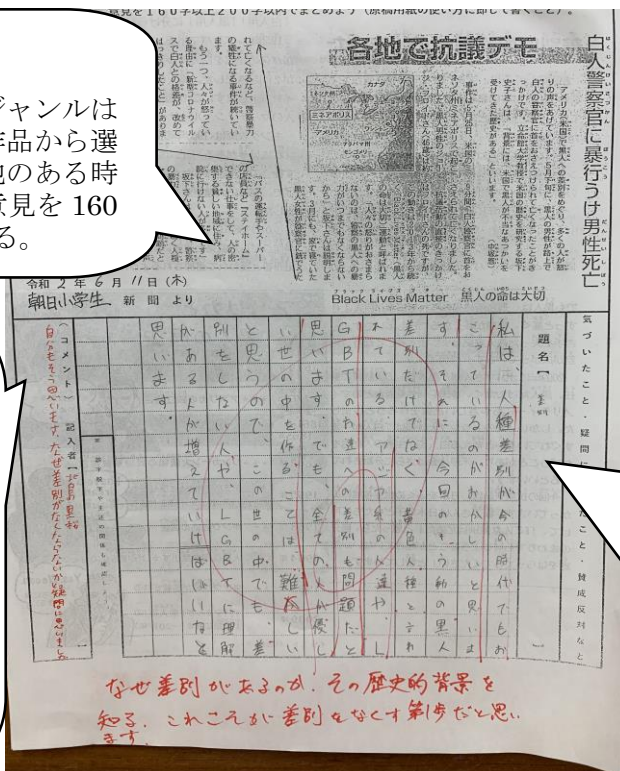
相互評価

友達の意見に対して、「同意」「反論」「付け加え」等のコメントをする。また、気になった意見には質問をさせる。

※ 教師も赤で原稿用紙の使い方や誤字脱字の訂正，意見へのコメントを入れる。

自分の意見

記事を読んで自分の考えを書く。生徒の実態に合わせて、「何か書いてみること（考えを表現・発信すること）」を第一に考え、書くことに苦痛を感じさせないように留意させる。早く書くことができた生徒には、文章構成や表現等の推敲をさせ、限られた時間の中で、読み手を意識したよりよい文章を書かせる。



(3) 新聞閲覧コーナーの設置

本校ではNIE開始1年目から司書と連携し、「新聞閲覧コーナー」を図書室に設けている。今年度も授業や休み時間に新聞を手に取り、じっくりと記事に目を通す生徒の姿が見られた。また、今年度は英字新聞も取り入れたため、英語が好きな生徒が積極的に読むことに挑戦している姿もあった。さらに、学校には多数の新聞が届くため、多くの職員が複数社の新聞を読んで情報を得ていた。生徒だけでなく、学校全体で新聞を読もうという意欲の高揚に、係として大変嬉しく感じていることである。場所の問題等の諸課題もあるが、継続させて取り組んでいきたい。



↑ 生徒が昼休みを利用し、新聞を読む様子。

5 今年度の成果と課題

【成 果】

- ・ 新聞を読む機会が増え、生徒だけでなく、職員も社会的な興味関心が高まった。
- ・ 名中タイムでは、友人どうしで自発的に意見交換をする姿が見られた。
- ・ 名中タイムでは、友人からの称賛のコメントが自信となり、書く意欲に繋げさせることができた。
- ・ よむのび教室では、伝える力、読む力、書く力等、様々な効果が得られた。
- ・ 新聞記事を読む経験を重ねることで、読むことに対する抵抗感が薄れ、読んで理解する速度も少しずつ上昇していった。
- ・ 新聞記事を読むことで、書くための知識や語彙の獲得につながった。

【課 題】

- ・ 他教科での実践に取り組むことができなかった。教科を横断し、幅広く NIE に取り組む必要がある。理科であれば天気図の利用であったり、社会（公民）であれば政治経済についてであったり、様々な可能性を検討し、学校全体で取り組んでいきたい。
- ・ 校務分掌の中に位置づけられたが、なかなか組織が機能せず、一教員に負担がかかってしまうこともあった。学校全体で NIE に取り組む協力体制をさらに整備していく必要がある。
- ・ 生徒の実態に応じて「名中タイム」ワークシートの配慮をする必要がある。
- ・ 鹿児島学習定着度調査で十分な結果を得ることができなかったことが悔やまれる。「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域を高めさせるために、教材としての新聞を研究しながら活用していきたい。
- ・ 「無答率0%」を目標に、書くことの力をさらに高めさせたい。
- ・ 新型コロナウイルスの影響における臨時休校のため、今年度の教育課程が圧迫され、具体的な授業実践に取り掛かることが難しかった。